

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	首都圏 - 1	(2) 記載者氏名:	北野 忠彦	会員番号:	10414	事務局整理記入欄	科学委 - 5
分水嶺区分	E344安ヶ森峠~E345 1398.7~黒沢のゴル	(3) 山行日:	2006年	5月12・13日	(4) 天候	12日:晴, 13日:雨	

(5) 参加者氏名および会員番号

箕岡 三穂	5788
北野 忠彦	10414
宮津 公一	13323
計	3名

サポート要員氏名および会員番号

井上 希夫	11321	藤本 慶光	12660
井上 千夏	11265	福山 美知子	12529
古市 進	10959	織方 郁映	12748
石田 要久	6372	向野 暢彦	13328
計	8名		

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	安ヶ森峠から西へ、P1294、1398.7を経て、黒沢の誌、ゴルから黒沢橋に下る												
アプローチ:	1日:湯の花温泉湯本屋旅館泊。12日:車で山王峠、五十里湖、湯西川温泉經由安ヶ森峠へ。(会津側アプローチできず)												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)~(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	安ヶ森峠	湯ノ花											
分水嶺到達点E344	安ヶ森峠	湯ノ花	139	36	31.8	37	0	51.1	1,156		6:40		
	P1294	湯ノ花	139	36	0.1	37	0	51.5	1,301	7:50		B-1	(9)
	小屋跡	湯ノ花	139	35	32.9	37	0	49.8	1,197	9:05	9:15	B-2	(8),(10)
E345	1398.7	湯ノ花	139	34	54.7	37	0	53.3	1,407	12:05	12:20	B-2	
	1398.7	湯ノ花								13:25			(10)
	P1370m付近	湯ノ花	139	34	46.9	37	0	34.6	1,372	14:35	14:45	B-3	(9)
	P1300m付近	湯ノ花	139	34	40.6	37	0	19.8	1,372	16:35	6:20	B-2	ビバーク地点
分水嶺離別点	黒沢のゴル	湯西川	139	34	22.4	37	0	6.6	1,201	7:20	7:50	B-2	(9)
歩行終了点	黒沢橋手前	湯ノ花	139	34	0.8	37	2	20.0	1,040	11:50			(9),(10)
												総歩行時間(休憩時間を除く):	13時間05分

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
E345	崖湯	3	E 6	良好	突き上げた地点からやや南西方向。139°34'54.7028", 37°00'53.2958"

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

1/25000図栗山村の栗の字の北北西600mくらいの位置に小屋跡あり。朽ちた小屋材、ブルーシート、錆びたワイヤーなど。稜線上ところどころプラスチック製の境界標あり。
---

(9) 水および植生に関連した特記事項

P1294を過ぎ西に向かうあたり、イワウチワの群落。シャクナゲも散見した。1304m標高点を過ぎたビバーク地点付近もイワウチワの群落。 ビバーク地点は笹もほとんどなくなり、平ですぐそばに残雪があり、比較的快適であった。 ビバーク地点から先、笹が多くなる。黒沢のゴルではかなり深い歩行にはそれほど影響なし。
--

(10) その他の特記事項

稜線から栗山村栗の字の南に向かう枝尾根に一時入り込み、GPSで位置を確認して戻る。 小屋跡付近から 手前までは、会津側・下野側ともに切り落ちている痩せ尾根。 から南側に延びる尾根で、記録係北野がリングワンデルングで 戻ってしまい1時間以上タイムロスした。500mほど下った残雪地点で、箕岡・宮津と合流できた。 ゴルへの最後のこぶの少し手前で南西に進むところを西に入り込み、目視とGPSで確認し、稜線に戻る。 ゴルの木の枝にサポート隊の差し入れがぶらさがっており感激。赤石沢隊のために一部をデポ。
---

(11) 写真の添付: (有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:

山行報告書(続き)  
表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。



赤岩沢のコルから枯木山分岐を望む



藪の続く分水尾根